

## 文科省事務次官が来町



↑文科省事務次官に要望書を手渡す町長

5月28日（水）、文部科学省の山中伸一事務次官が広野町を訪れました。

山中事務次官は、広野中学校、広野小学校や県立中高一貫校建設予定地などを視察したあと、広野町役場で遠藤町長と懇談しました。

その席上、町長は、旧緊急時避難解除準備区域への「早期帰還賠償」を賠償指針に盛り込むことを内容とする要望書を、山中事務次官に手渡しました。

その適用範囲は、町民に対してだけでなく、旧緊急時避難準備区域全体への適用を要望しています。

## 広野駅への特急乗り入れなどを要望



↑議長と連名でJR東日本に要望書を提出

遠藤町長は、5月28日（水）、広野町役場に東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）水戸支社の佐藤浩美総務部企画担当部長を迎え、鈴木町議会議長と連名で要望書を手渡しました。

要望の内容は、①東日本大震災後JRいわき駅止まりとなっているJR常磐線特急列車「スーパーひたち」の、JR広野駅乗り入れ再開と、②いわき駅発広野駅着の常磐線下りダイヤについて、生徒、学生の帰宅時間でもある午後6時台の増便を要請するものです。

要望書の提出には、町長、議長のほか、菅野副町長や渡辺町議会議長も同席しました。

## 大学の学生が児童・生徒の指導も地域連携協力協定を締結



↑地域連携協力に関する協定締結の様子

広野町は、6月6日（金）、東日本国際大学およびいわき短期大学と地域連携協力に関する協定を締結し、遠藤町長と学校法人昌平堂の緑川浩司理事長が協定書に調印しました。

この協定は、人材や施設などの相互利用、教育文化事業に係る連携協力、地域振興やまちづくりなどの調査・研究に関する相互協力を内容とするもので、事業として大学・短大の学生が幼稚園・小学校・中学校で児童・生徒の指導にあたることや、大学・短大の学生インターンシップを町が受け入れることなどを想定しています。

## 双葉地方町村会の要望活動



↑双葉地方町村会要望活動の様子

遠藤町長は、5月22日（木）、双葉地方町村会の要望活動に参加して文部科学省などを訪れ、富岡勉文科大臣政務官らに要望書を渡しました。

その内容は、原子力損害賠償紛争センターの和解事例と同様の損害に対しては、全ての被災者が等しく賠償が受けられるよう、原子力損害賠償紛争審査会の指針への反映を求めるものです。

## 大島衆議院議員が来町



↑広野町を視察する大島本部長

6月3日（火）、自由民主党・東日本大震災復興加速化本部長の大島理森衆議院議員が広野町を訪れ、遠藤町長の案内で町の復興の様子を視察しました。

## 日本代表応援プロジェクト 日本代表ユニフォームを着用



↑日本代表ユニフォーム着用で開催された6月定例議会

広野町では、先日始まった応援垂れ幕の掲示に引き続き、職員による日本代表ユニフォーム着用を実施しました。

6月12日、13日に開催された平成26年第2回広野町議会定例会では、議員、執行部ともユニフォーム姿で出席し、議場がサムライブルーに染まりました。

## 日本代表応援プロジェクト 広野産米を贈呈



↑広野産米贈呈式の様子

広野町は、5月23日（金）、日本サッカー協会に贈呈する広野産米の贈呈式を行いました。

遠藤町長から、サッカー日本代表専属シェフの西芳照さんに広野産米30kgが手渡されました。西さんは、広野町在住のレストラン・オーナーシェフで、サッカー・ワールドカップ日本代表に帯同するのは、今回のブラジル大会で3大会連続となります。

贈呈したコメは、アメリカ合宿の期間中、おにぎりなどにして選手に提供されたとのことでした。

## 独立した機関が広野町の除染を検証 除染等に関する検証委員会を設置



↑第1回除染等に関する検証委員会の様子

広野町は、6月3日（火）、町の除染について有識者による分析と検証を行う目的で、大学教授などの有識者で構成する「広野町除染等に関する検証委員会」を設置しました。

委員会は、放射線などを専門とする6人の学識経験者で構成し、福島県立医科大学災害医療総合学習センターの熊谷敦史副センター長を、委員長に選任しました。

会議は今年度中に提言をまとめる予定で、町外に避難している町民へ情報を発信し、帰還への判断材料を提供することなどを目的としています。